

ワタナベマサタケ 渡邊正武 通稱傳藏 左兵衛。元祿十年祖父藤左衛門の遺知三百石を襲ぎ、表小將より諸職に轉じ、享保九年二百石を増し、十一年御持弓頭に至り、十六年九月廿五日五十二歳を以て歿した。

ワタナベマン 渡邊滿 初め定番御歩となり、寛政十二年養父貫の遺知七十石を受けて新番に列し、文政九年三十石を加へて組外に進み、御預地方御用加人・表御納戸奉行となつて十一年六十三歳で歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ワタナベヨイテロウ 渡邊與市郎 父藤掛土佐守は豊臣秀頼に仕へ、大坂に於いて討死した。與市郎即ち氏を改め、前田利常に仕へて七百石を受けた。子孫相繼いで藩に仕へる。

ワタナベリツ 渡邊栗 通稱吉次郎・吉郎。兵太夫。初諱順、字は祐夫、號は文章。足輕小頭渡邊兵太夫信の子。初め林裏に學び、寛政四年學校讀師を命ぜられ、五年九月定番御歩に任じ、祿三十俵を受け、次いで江戸の聖堂に入り、享和元年歸郷、二年俵十俵を加へ、文政元年新番組に列し、七年九月新知百石を賜うて御備者となり、天保九年二月頭並に班して役料百石を受け、都講を命ぜられて祿五十石を増された。十年二月更に物頭並に進み、役料百五十石を受け、明倫堂督學兼經武館督學に任じ、藩侯の侍讀を兼ね、弘化三年十月隠居して二十人扶持を賜はり、名を三休と改め、嘉永四年九月四日歿した。享年七十四。

ワタナベリユウ 渡邊隆 羽咋郡高嶺の醫。諱は元敬・隆。恒嶽と號し、南宗の文人畫を善くし、明治廿六年八月六十一歳で歿した。

ワダブンジロウ 和田文次郎 號は尙軒、所居を理心堂といふた。書家淡水七代の孫で、慶應元年三月金澤御門町に生まれ、廿四歳鹿島郡の留學生として東京専門學校に學び、後専ら加能二國の史誌研究のことに従ひ、各郡誌・金澤市史・鳳巖の光・行啓拜録・加賀能美故工藝作家名鑑等多数の書を出し、又加越能史談會を起してその發展に努力した。昭和五年四月八日歿、享年六十六。法諡賢幽齋文淵尙軒居士。

ワダホウジュウ 和田法住 江沼郡南郷眞宗東派淨泉寺の僧。專信房と稱した。才識秀拔、廣く布教に従事し、明治五年十月廿五日七十五歳を以て歿。

ワダホウズ 和田坊主 加越關靜記に、永正三年加賀の一揆が越前に侵入した時、越前和田の本覺寺は之を助けたが、敗戦して共に加賀に逃れたといひ、又弘治元年朝倉宗滴加賀出馬の條に、一揆方の大手は石川勢和田・蕪木とある。越登賀三州志に、和田坊主は本覺寺で、その末能美郡小松本覺寺とも、又は越前福井の本覺寺ともいふと記する。

ワダマサカツ 和田正勝 通稱久太郎・兵左衛門。初諱長安。享保八年父傳八郎の遺知百五十石を襲ぎ、九年表小將となり、元文五年五十石を加へ、寛保二年前田宗辰附御小將横目より諸職を經、安永四年六月十九日七十七歳を以て歿した。

ワダマサタツ 和田正辰 通稱小右衛門。父小右衛門の祿六百石を襲ぎ、後百石を加へ、その職は大小將横目・定番御番頭から漸く進んで御馬廻頭となり、御算用場奉行に任せられたが、元祿九年饑饉の際その處置當を得ざるを以て職を免ぜられ、正徳四年歿。

ワタモトヒテ 和田元秀 通稱甚十郎。貞享四年三月十九日奥附御歩横目から轉じて、御坊主頭を命ぜられたが、享保年間知行を除き、先祿の中五十俵を賜はつて通塞を命ぜられ、定番御歩に加へられた。御算用者和田耕藏の祖である。

ワダモロエモン 和田諸右衛門 慶長八年前田利常に仕へて百五十石を受け、寛永九年歿した。子孫相繼いだが、嫡系は六代喜太夫、寛政四年自殺仕損によつて知行を召放された後斷絶した。

ワタヤキイン 綿屋希因 金澤の俳人。俳諧傳系に『希因加賀人和田氏』とあるが、和田氏といふのは綿屋を誤つたもので、實は大越氏の出であり、小寺氏をも稱したのであらう。通稱彦右衛門。酒造と錢商賣を業とした。初號を紀因・幾因又は申石子といひ、所居は初め百鶴園、後に暮柳舎と號した。俳諧を北枝に學び、次いで支考に従ひ、更に乙由門下の高足となつた。寛延三年七月十一日歿、享年五十一又は五十四。釋祐律と諡せられた。その句集を暮柳集といひ、明和三年男後川によつて撰ぜられた。

ワタヤゴセン 綿屋後川 小寺氏。通稱市郎右衛門。父希因の後を受けて百鶴園又は暮柳舎と稱し、寛政十二年十二月歿した。その著に梅の草紙があり、歿後の句集としのうち及び文化十二年十七回忌に先だちて編んだ後のともしがある。因にいふ。後川の死去を寛政十一年とするものがあるが、その辭世の句が『としの内の春にもあはぬ命かな』であることによつて十二年であることが判る。十一年の立春は正月元日、十二年は正月十二日及び十二月廿二日であるからである。

ワタヤホクケイ 綿屋北莖 金澤の俳人。後川の子。百鶴園を繼席し、又鳥翠臺とも翠臺とも號し、文化三年には北國巡杖記を著した。但し巡杖記には北莖に作つてゐる。

ワダヤマ 和田山 鳳至郡和田の部藩南方の山。高さ一四六米。地質第三紀層。

ワダヤマジヨウ 和田山城 能美郡和田に在つた。越登賀三州志故墟考に、一説に一向一揆の時和田坊主この堡を築くといふ。享祿四年朝倉宗滴賀賦を討つて三堂山に據るといひ、天正八年柴田勝家が安井右近を三堂山に置くといふも、並びにこの和田山のことであると記する。三堂山と和田とは相隣接する。

ワダヤマジヨウ 和田山城 河北郡にあつた。越登賀三州志故墟考に、富田村と岩崎村との領界にあつて、賊將富田左近の居た所であると記する。

ワタヤマヒテツナ 渡山秀綱 通稱兵衛次郎。この人名は諸書に見えぬが、年不詳六月十日秀綱から金澤御坊の坊官坪坂伯善入道に宛てた消息に、『仍從杉浦壹岐法橋之一札令披閱、即不移時日郡内へ申觸候』とあるから、一郡の觸頭たる地位に居たのであらう。今河北郡町村に小字渡山があつて、地方人は之を御神造城といふから、或は秀綱の據つた所であらうかといふ。

ワタリ 渡 白山々中にて谷に添ふ山道といふ。龍谷渡・三日月渡・岨清水渡など皆是である。

ワタリグロ 渡利黒 前田利長乗用の名馬。もと堀左衛門督秀治の家臣渡利八右衛門なる者の所有で、長は四寸餘、毛色は眞黒であつ